

～関係人口の構築を目指して～

村では、大学生を対象に、地域の課題解決や新規事業立案に挑戦する「東通村インターンシップ」事業に取り組んでいます。本事業は、国の『地域おこし協力隊インターン制度』を活用しており、本制度を活用した事例としては、県内で初の取組みになります。

今回は「東通村で水揚げされる海産物の美味しい！を届ける情報発信ツールを作成せよ」という目的のもと、青森公立大学2名のインターン生を迎え実施しました（詳細は次号を御覧ください）。また、村だけでなく村内企業でも実施され、現在までに7名の大学生にお越しいただきました。

本取組が新たな価値を生み、内発的な発展につながることを期待するほか、今後は、継続的に関わり合いを持てるしくみづくりの構築を目指していきます。

本記事は企画課へ
インターンシップでお越し
いただいた大槻実冬さん（特
集ページ）が担当しました！

【東通村総合計画作成のための ワークショップが行われました！】

～東通村に必要な総合計画とは～

この度、村では村民のみなさまが主役となる村政運営を実現するため、東通村の進む新たな道しるべとなる「東通村総合計画」の作成に着手いたしました。「総合計画」とは、地域づくりの方向性を示す「基本構想」、行政計画を示す「基本方針」、施策を示す「実施計画」の3つを合わせたものであり、村の目指す姿や、施策などをまとめたものです。

8月23日、合同会社政策支援の細川甚孝さんを講師にお招きし、ワークショップが開催されました。総合計画とはなにか、なぜ総合計画を作るのかという説明から始まり、まちづくりの見取り図であるということや、総合戦略という基準を作ることで選択と集中による効果的な施策、事業推進が図れるという利点があること、また村のあるべき姿や、あってほしくない姿を明らかにするという観点でも総合計画を取り扱う理由があることを教えていただきました。また、細川さんは、総合計画の内容は、コンパクトにすること、過去のデータ等を載せること、これまでなぜ上手くいっていたのか、いってなかったのか、ターゲットはどう考えているのかを把握すること、将来のリスクを把握することをもとに総合計画をつくっていく必要があるとおっしゃっていました。



ワークショップの最後には、複数のグループに分かれ、数か所の市町村の総合計画から、いまいちな事例と良い事例の比較を行い、写真の配置場所や色の使い方、デザイン、分かりやすいアイコンなどが、いい例として挙げられていました。

今後も「村民のみなさまが主役」の村政を展開すべく、みなさんの声を聞く機会を設けていきますので、次にワークショップが開催された際には、ぜひご参加ください！

【問合せ先：企画課0175-27-2111 内線221】